

全国で少人数数学級の声あがる 私たちが大事にしたい視点とは…

コロナ禍で広がる

少人数数学級を望む声

九月八日、教育再生実行会議は、少人数数学級を「令和時代のスタンダード」として推進するよう要請する中間答申をまとめました。この会合の中では、新たな時代の学習環境に関し、三密の回避やパソコン端末の活用を進める観点から、少人数制によるきめ細かな指導体制を計画的に整備する方向性を確認しました。時事通信より、少人数数学級を期待する声はどんどん広まってきています。

この広まりの一因にあるのはソーシャルディスタンスの確保という視点でしょう。宗谷管内の各学校では少人数数学級の実現のため、教職員や地域の方の声を署名という形で集め、文科省や国会、道議会へ届けてきました。それはコロナが始まる何年も前からです。私たちは何

のために署名を集めてきたのでしょうか。

分散登校で感じた

少人数数学級のよさ

コロナにより昨年度・今年度と全道、全国で分散登校が行われました。最初は子どもたちの状況をj知ることが大きな目的でした。コロナの終息がなかなか見えない中、臨休が続くことで授業の進度が大きな課題となり、分散登校で教科の学習も行われるようになりまし。七月十九日の道新には次のような記事が載りました。

旭川市の中学三年の男子生徒は、感染防止の少人数数学級が終わったことが不満だ。五月下旬の分散登校では、一クラスが通常の三十四人から十七人に半減。理解できなかった二次方程式を教員から個別に教えてもらい、苦手意識が消えた。「なんだ、人数が少なければ分かるじゃん。」これまで考えたこともなかった。

この生徒の言葉が本質を突いているのではないのでしょうか。子どもたちの「そうか、わかった!」という笑顔は私たちの働き甲斐の一つです。

教育を豊かに…

それが私たちの願い

宗谷管内には複式学級の小規模校から、学年に複数学級がある大規模校まで様々な規模の学校があります。その中でも小規模校が多い地域です。教育再生実行会議では「少なくとも三十人、できれば二十人を目指すべきだ」という意見が出ています。ではそれ以下関係のないことなのでしょうか。少人数数学級の必要性を感じている先生は多くはないのではないのでしょうか。

少人数数学級が実現するということは、教育にかける予算が増えるという

私のおすすめ

消しゴムはんこを作り始めて2年近くになりました。mizutamaさんの消しゴムはんこワークショップに行く機会があり、そこで「ものづくり」が楽しいと初めて感じました。職員室の回覧板に押しついたり、暑中見舞いや年賀状、生徒たちの夏休みの宿題に押しついたりして活用しています。おかげで程内東中の教職員向け職員紹介では「特技は消しゴムはんこ」と書かれるまでになりました。先生方からたくさん消しゴムはんこについて声をかけられて、私はとても嬉しいです。

作っているときはたまにご飯を食べることを忘れることもあります(笑)。黙々と取り組むのでストレス解消にもなっています。また、Instagramで消しゴムはんこ作家たちの作品を見て勉強をしています。

細い線が彫ることができたらうやましいです。全国の消しゴムはんこを作っている先生方もつながることができ、そこでなわ作文の会の学習会を紹介してもらってzoomで参加することもできました。

写真は今年3月の臨時休校中に作った「アマビエ」と「アマエビ」です。「疫病退散」を願って作りました。早くみんなが活動できる日々が戻って来ますように♪ (程内市立程内東中学校 太田 千絵)



ことです。現在は市町村ごとに学校予算を手厚くしたり、市町村費職員を配置したりしています。国が教育予算を手厚くすることで、各自自治体の負担軽減にもつながります。また私たちの職業は異動を伴います。全ての町の教育条件を整備されるということは、私たち教職員も働きやすくな

ると言えるのです。コロナにかかわる報道は毎日行われています。子どもたちの命と健康を守る視点はとて大切ですが、しかし、子どもたちに確かな力を…という視点も忘れてはなりません。



編集後記

最近、回るお寿司屋さんに行き思ったこと。「炙り」とか「マヨ」とかが、気づいたら「なんだかぜついなあ」と感じた。反対に、いつまで食べていられるものもある。それは、得てしてそれほど味の濃くないものだったりする。考えてみれば、「主食」とされるものはあまり味が濃くないものであ

ることに気づく。教育にも似たようなところはあのかせられない。子どもたちにとって「味の濃い」活動は、いつか飽きか来ってしまうもののかせられない。そしてそれらの活動は、「地道な日々の積み重ね」という「主食」に支えられている…という言い過ぎだろうか。

宗谷の「先生」をつなぐ 月刊誌「soya」2020.10

発行日 2020.10.1
発行人 宗谷教職員組合
発行人 古川 正史
〒097-0004 程内市第2丁目4-21 宗谷教育会館
20162-22-2480 メール info@soya-teachers.org

Soya

宗谷の「先生」をつなぐ月刊誌

10

2020 October vol.6

宗谷管内の魅力いっぱい情報誌
毎月無料で机上にお届け!

語ろう!子どもたちの成長を! 学びの秋、教育実践を交流しよう!

全国で少人数数学級の声あがる 私たちが大事にしたい視点とは…

授業づくりの玉手箱③「保健室からの発信」
私のおすすめ「消しゴムはんこ」



Photo:枝幸町・神威岬公園

語ろう！ 子どもたちの成長を！ 学びの秋、教育実践を交流しよう！

現在、各学校で時数確保優先と捉えられる動きが作り出されています。そのため、宗谷で大切にされてきた学校づくりの視点に沿った学校研究や教育課程論議が後景に追いやられている印象です。

私たち教職員もこの情勢のなか「研究」に目を向けられていないのが実情です。今こそ真の「学びの保障」に向かうために必要なことを考えたいと思います。

教職員組合の意義は二つ

教職員組合の役割は、労働者として労働条件を改善するための努力と教職員として子どもの権利を守るための実践という2つの側面があります。とりわけ豊かな実践を創造する過程において、私

たちは飽えず研究と修養に努めることとされています。

研修にもさまざまな種類とわらひがあります。最も身近なのは行政が主導する研修でしょう。ただ、こういった研修は参加者が同じ目的意識のもと、同じ理論や方法を習得させようという枠組み

が明確な場合が多いと感じます。

一方、実際の学校現場には同じような実態はあってもすべてを同じく適用することは困難です。例えるならば、気候や土壌が異なるなかで同じ作物を同じ状態にまで育てることは不可能であることに似ています。

小さなことを語り合う価値

一見、堅苦しく、敬遠されがちな「研究」。しかし、私たちは知らず知らず「研究」を日々繰り返しています。

最近では頑張っていたんですが、今日の授業は〇〇が覆ってたんですよ。実は昨日も注意したんですが……

職員室でよく見られる「子どもも交流(生徒交流)」。右に挙げた会話は、ある学校でのものです。その時の状況や、注意の仕方と反応など簡単にやり取りをして、副担任の先生と原因を何気なくやり取りしたそうなんです。

後日、明らかになったのは、以前にその子にお願いされて始めた生活管理の仕組みが破綻して、再びスマホ依存に陥っているという事実でした。

「一緒に生活を考えても良かったのに守れない自分を見せられない」という思いを抱えながら生きて

いたという肉面的な葛藤もわかりました。ここから、保護者を含めた指導のチャンスが生まれます。これを「子ども研究」と呼べるでしょう。

現在、どの職場でも、子ども論議や授業づくりについて「みんな話話ししよう！」となかなか切り出せないほど、時間も労力も削げません。

しかし、先ほどの事例のように無意識に同僚と交流していないでしょうか。そこに光を照らし、振り返ったとき子どもとの関わりや授業づくりのヒントが転がっているものです。

ひいてはそれが、同僚や自分自身が大切にしたい教育観の表れであり、共同の実践の形成につながるものです。それは、宗谷で大切にされてきた職場づくりや集団づくり(子どもと理解や最終的には「学校づくり」の視点と重なります。

教職員としての最大の喜びであるはずの「子どもの成長」への可能性を語り合うことは多忙を越える支えとなり、カギと

教育研究の主体としての教職員組合

冒頭、教職員組合の役割として労働者の権利と「子どもの権利」への努力と実践であることを論じました。いずれにおいても、広く深く、努力と実践を紡ぐためにはそれぞれその目的意識に即したそれぞれの学びをデザインし、獲得していくことが大切だと思います。そのため、教職員組合は単に権利を主張する職員団体でとまらなくては、教育研究団体だと考えます。



コロナ禍の子どもの体力の低下や密を避けるなどの限られた条件の中で学校として、行事を通して子どもたちに何を学ばせるのか……



秋になり、運動会や学芸会の取り組みが進んでいます。リレーのバトンやひとり一本にしたリレーの演舞の距離をいつもよりも広くとったり工夫をしながら取り組んでいます。



11月は、合同教研です！コロナ禍の学校づくりをいっしょに語り合いませんか？



悩んで、議論して、子どもたちの様子から考えながら取り組むことで、学校という場所の意味、行事に取り組みさせる意義を改めて考え、共有できる気がしませんか？

授業づくりの玉手箱 保健室からの発信

「学校名を変えるだけで、どこの学校でも使用できる保健だより」に銘じて、保健だよりを発行しています。どこかユーモアがあって、子どもや保健室の様子がわかって、読みたくなる保健だよりをめぐっています。

学校の規模によってその内容は変えてきましたが、稚内中央小学校では、「ほけんしつのちよっといい話」のコーナーが好評です。

高学年女子との会話です。子ども「まみや先生、日曜日マ？」まみや「ん？どうしたの？」子ども「日曜おそぼうよ。」まみや「何してあそぶの？」子ども「鬼ごっこか……。」まみや「(爆笑)」誘われてくれている。久しぶりに遠く短い日を送りました。おとなになってから、誘われるのも悪くないものです。高学年女子によるかわいらしい話です！でした。もちろん5才には鬼ごっこはハードです(笑)

保健だよりをネタに「おもしろかったです。」とわざわざ保健室に顔を出してくださる保護者もいます。藤田和也氏によると、「保健だよりを通して送るメッセージが保護者のイメージが作られ、「そのイメージこそが頼りとなっていく。」そうです。今後子どもともおうちの方ともつながる実践として、「ほけんだより」を大切に考えていこうと思います。

宗谷の空 11月7日・8日は合同教育研究全道集会！

合同教育研究全道集会(通称:全道合研)は、「平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立をめざして」、1976年の第1回開催以来、道内の教育関係者、父母、道民が集い40年以上の歴史を刻んでいます。今年度はコロナ禍の対応として、ZOOMを活用したオンライン開催となりました。この研究集会の目玉でもある分科会は、24個の分科会が設定されており、これは全国的に見てもきめ細かな展開で、北海道の伝統と文化と言えるものです。今年度の分科会開催は、それぞれの分科会で開催の有無を検討している段階です。

参加申込はホームページから。



- 合同教研で解説されている24の分科会
(1)国語教育 (2)外国語教育 (3)社会科教育 (4)数学教育 (5)理科教育 (6)美術教育 (7)音楽教育 (8)音楽教育 (9)技術・職業教育 (10)家庭科教育 (11)保健・体育教育 (12)総合学習・生活科 (13)道徳教育 (14)学校と家庭の生活指導 (15)教育条件等立派の運動 (16)教育課程・学校づくり (17)地域における子育て・学童運動 (18)地域と学校の文化・スポーツ活動 (19)国民のための大学づくり (20)障害児・障害者の教育と福祉 (21)環境・公営と教育 (22)平和・憲法、人権・民族と教育 (23)子ども・青年の発達と教育 (24)不登校・登校拒否・高校不登校
◆10月1日現在、(4)数学、(20)障害児分科会がオンライン分科会を検討中。

全教共済

11月くらいになると、年末調整の用紙が配布されます。保険会社から送られてくる保険料控除証明書を元に記入し、保険料控除証明書を添付して提出します。12月給料で払いすぎた税金があれば戻ってきます(給料明細書では所得税の欄が少なくなったりマイナス表記になります)。条件は様々ありますが、例えば年収が600万円の方は最大

で所得税で2万4千円が戻ります。年末のちよっとした楽しみにしている方もいるでしょう。「共済は安いと言っても、保険は年末調整があるから結局金額的には変わらないんじゃないの？」と思われていませんか？保険金(共済金)や性別などによって多少の違いがありますが、年末控除で1万5千円戻って来ていた30代男性が見積もりを立ててみたところ、ケガの部分で以前より手厚くしたものの、年間で支払ひ額が3万5千円ほど

と安くなりました。つまり、2万円ほどお得になったということ。保障が手厚くなり、支払う額が少なくなるというメリットがくしくしです。「全教共済 宗谷」という宗谷限定のLINE公式アカウントを設立しました。友だち登録し、ご自身の所属校・氏名を打ち込んだ上で相談事を打ち込んでもらえれば対応できます。状況によっては日にちをまたいでの返信となるかもしれませんが、そこはご了承ください。